

Area Innovation Review Mook 017

特 集

総点検！ まち・ひと・しごと総合戦略

(AIR 2015年9月・10月・11月発行 vol.167 - vol.176特集)



AREA INNOVATION REVIEW

(URL : <http://areaia.jp/>)

【 目 次 】

- 第1回 「京都府京丹後市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p3
『2060年の人口ビジョンに惑わされるな！目先の5年が鍵！』
- 第2回 「滋賀県長浜市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p10
『人口社会減の恐怖！』
- 第3回 「福島県会津若松市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p19
『都市圏人口規模と(高次)都市機能の維持ワーストシナリオと向き合う時代』
- 第4回 「長野県東御市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p25
『地方創生の主体者としてのあるべき行政単位』
- 第5回 「福岡県福岡市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p33
『若者流出抑制策の是非』
- 第6回 「東京都稲城市」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p42
『(首都圏)ベッドタウン競争、勃発！？』
- 第7回 「大きく転換した日本の社会構造に向き合う」・・・・・・・・ p51
- 第8回 「総合戦略べからず論」・・・・・・・・・・・・・・・・ p60
- 第9回 「仮説！総合戦略あるべき論（1）」・・・・・・・・ p66
- 第10回 「仮説！総合戦略あるべき論（2）」・・・・・・・・ p70

<お断り書き>

本MOOKは、AIAの配信するメールマガジン『Area Innovation Review』の2015年9月・10月・11月度配信のvol.167～vol.176の特集記事を再構成したものを一部加筆修正したものです。

その後、本文内にて紹介しておりますサイトや資料などのURLが一部切れてしまっている可能性があります。ご容赦頂きたく存じます。

第1回 「京都府京丹後市」

『2060年の人口ビジョンに惑わされるな！ 目先の5年が鍵！』

今週から始まる連載『総点検！ まち・ひと・しごと総合戦略』。こちらの連載では、各自治体が公表している「まち・ひと・しごと総合戦略」を1か所ずつ点検していきたいと思います。もちろん戦略自体の成否は将来にならないとわからないので、今回の特集では、ロジックで整理し、各都市の戦略をシングルイシューで迫りたいと思います。

初回は、全国で最初に地方版総合戦略を策定されたことに敬意を表しまして、京丹後市をみてみたいと思います。

- ・ 地方版総合戦略、京丹後市が全国初の策定

<http://www.sankei.com/region/news/150304/rgn1503040038-n1.html>

そうそう、京丹後市の地方版総合戦略では、国全体でガンガン人口が減っていく推計がある中、2060年には今よりも人口が増えます！という人口ビジョンでも話題になりましたよね。

- ・ 京丹後市 地方創生（人口ビジョン・総合戦略）

<https://www.city.kyotango.lg.jp/shisei/shisei/tihousousei/index.html>

今回の気づきは 『2060年の人口ビジョンに惑わされるな！ 目先の5年が鍵！』 でございます。

1. 基礎情報確認

人口ビジョン・総合戦略を見る前に、まずは、基礎情報を確認しておきたいと思います。

- ・ Wikipedia 京丹後市

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E4%B8%B9%E5%BE%8C%E5%B8%82>

- ・ 場所は、京都府の最北 日本海に面した丹後半島。
- ・ 2004年4月に6町で合併。
- ・ 航空自衛隊の分屯基地、米軍通信所がある。
- ・ 市内に高速道路はなく、鉄道も京都丹後鉄道のみ。
- ・ 2015年推計人口 55千人。
- ・ 大学はなく、高校が3校。

続いて、統計情報も確認しましょー。

- ・ ミエルカ 人口増加都市 京丹後市

http://www.visualization-labo.jp/machi1.php?new_pref=26&new_town=262129&submit=%E9%81%B8%E6%8A%9E

- ・ 人口は、直近10年で、1万人ほど（2割弱）減っている。高齢化率30%超。
- ・ 農業・漁業のエリアかと思いきや、従業員数では製造業がトップで7000人ちょっと。
- ・ 温泉もあって、宿泊業・飲食サービス業で、従業員数3000人ちょっと。
- ・ 製造業の従業員数は、生産用機械機器・輸送用機械・繊維工業・食品加工あたりが多い。

丁度、こんなニュースもありました。

- ・ 放置11年、廃墟のタワー 京丹後、異様な存在

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20150907-00000007-kyt-l26>

2. 京丹後市人口ビジョン

2-1. 2060年の人口ビジョン 75000人！

- ・ 83千人 1950年ピーク人口
- ・ 59千人 2010年国勢調査
- ・ 55千人 2015年推計人口
- ・ 26千人 2060年 社人研推計
- ・ 44千人 2060年 国の長期ビジョン展望比例推計

といった中、京丹後市の2060年人口ビジョンは、75千人となっています。2つの推計値との乖離もさることながら、国全体で人口が減るであろう中、わが町の人口は増えます！としているのですから、そりゃ、話題にもなりますよね。当然、新聞をはじめいたるところで、その現実性に？を投げかけられております。

しかしながら、次の市長インタビューを読みますと、

- ・ 中山京丹後市長 「問われているのは矜持と検証」

<https://www.city.kyotango.lg.jp/shisei/shisei/tihouseisei/documents/forum201505.pdf>

「45年も将来なんて、自分たちの気持ちと行動でなんとでもなる。夢は大きく、とにかくやるんだ、というまさにビジョンを設定したのだ。45年前の1970年と2015年を比べても、

大きく社会は変わっている。逆に言えば、今後、今までにない取り組みや努力を積み重ねていく上で、こんくらいの夢があるビジョンが無ければ、取り組みや努力に対する気合、覚悟、本気が入っていかない。ビジョンとはそういうものではないか。」

といった声が聞こえてきた気がします。もしかしたら、地元政界の中で、「地元の人口ビジョンとして、推計人口にあるように、今から人口が半分になります、でも、みなさん、これまでない努力をお願いします！」とは言いにくいところかもしれません。

2-2. 現実的な目標

となりますと、2060年に72千人という京丹後市人口ビジョンに向けて、重要なのは、現実味のある直近の目標でしょう。2010年から2015年の5年間でも、▲3500人（▲5.9%）ほど人口が減っている状況ですので、ひとつは、（1）人口が増えだす時期、もうひとつは、（2）人口減少数が減りだす時期の2点がポイントになります。

（1） 人口が増えだす時期

まず、人口が増えだす時期ですが、2030年から2035年の5年間で、+500人（+1.0%）ほどの人口増加の時期を迎えるとなっています。いまから20年後ですね。20年かけて、あれやこれや手を打って、人口の減少を食い止め、人口増加に転じていくんだ、ということですね。

さきほどの2060年ビジョンではないですが、20年後に人口増加に転じるといよりも、20年後には人口増加に転じたい、そのために、この20年、あらゆる挑戦に努力するんだ！といった感じかもしれません。

（2） 人口減少数が減りだす時期

で、人口減少している京丹後市が、20年後からの人口増加を目指すには、その前に、人口減少数が減りだす時期というのがあるはずでして、京丹後市の場合、これがまさに、2015年から2020年の5年間に設定されています。この5年間で、減少数を▲2858人（▲5.1%）に抑え、その後も5年間ごとに減少率を、▲3.7%（▲1962人）、▲1.3%（▲681人）と減らしていくビジョンとなっています。

ちなみに、2010年から2015年の5年間の人口減少数が、▲3502人でしたから、644人の改善ということになります。

当面の5年間は、この数字が目指すべき目標ですね。2060年の数字が壮大なだけに、こちらは、なんか、現実的な数字と言いますか、うまいことやれば、届いても不思議ではない、という気になってきます。